

広島市の被爆樹木二世の「アオギリ」

～広島市民に生きる勇気と希望を与えた～

『広島市民に生きる勇気と希望を与えた、被爆樹木二世の「アオギリ」』という、多くの人たちのいろんな想いをのせた「アオギリ」の苗木が、大瀬中学校の南門のそばに移植されています。被爆の惨禍に遭いながらも、焼け焦げた幹から再び芽吹き、市民に生きる勇気と希望を与えたこの「アオギリ」のように、大瀬中学校の生徒も、たくましく成長して欲しいと願っています。

そして、いつの日か、この「アオギリ」が大瀬中学校のシンボルツリーとなりますように……





平和首長会議 Mayors for Peace

広島の被爆樹木二世：アオギリ

Second-generation A-Bombed Chinese parasol tree from Hiroshima



(広島の平和記念公園内の親木)
Mother tree Chinese parasol (*Firmiana simplex*)

1945年8月6日午前8時15分、一発の原子爆弾により広島の街は廃墟と化し、その年の暮れまでに14万人もの市民が亡くなりました。

被爆樹木は、被爆の惨禍に遭いながらも、焼け焦げた幹から再び芽吹き、市民に生きる勇気と希望を与えるとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え掛けています。

貴自治体にお贈りしたこのアオギリの二世が大切に育てられ、多くの人々に愛されることにより、貴自治体の平和のシンボルとなることを心から願っています。

平和首長会議

このアオギリは、生き残った親木の種から発芽したものです。親木は爆心地から1,300メートルの距離にある旧広島通信局(広島市中区東白島町)の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が原爆の熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、市民に生きる勇気と希望を与えました。1973年に平和記念公園に移植され、今も成長を続けています。右のQRコードを読むと、被爆樹木の位置情報が表示されます。

